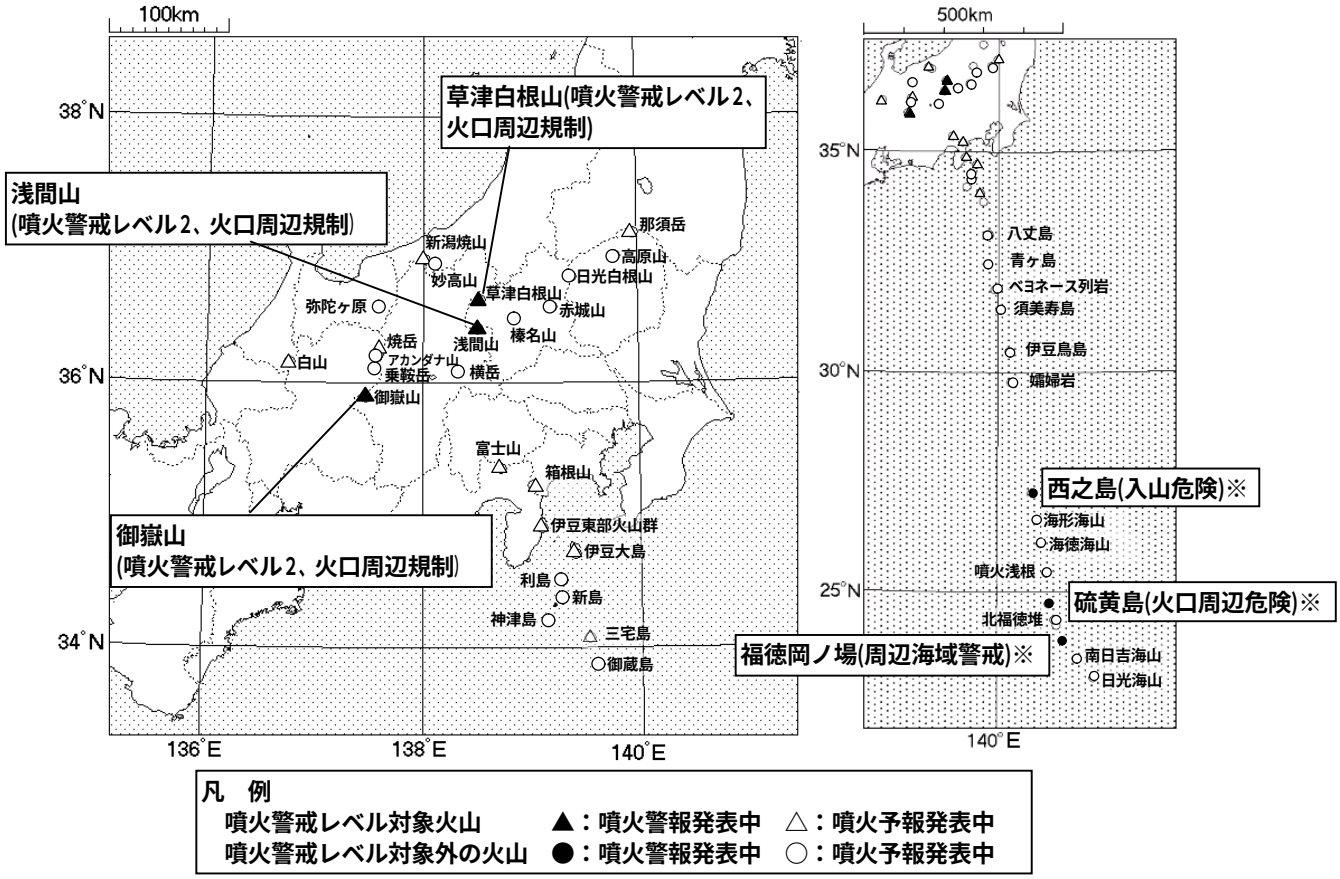
管内月間火山概況（平成 28 年５月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（５月 31 日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル２（火口周辺規制）	草津白根山、浅間山、御嶽山
	入山危険	西之島※
	火口周辺危険	硫黄島※
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場※
噴火予報	レベル１（活火山であることに留意）	那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島
	活火山であることに留意	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山

※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中です。



凡　例
噴火警戒レベル対象火山　▲：噴火警報発表中　△：噴火予報発表中
噴火警戒レベル対象外の火山　●：噴火警報発表中　○：噴火予報発表中

＊噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 28 年６月分）は平成 28 年７月８日に発表する予定です。この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、関東地方整備局、中部地方整備局、国土地理院、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都、新潟県、長野県、岐阜県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

那須岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

日光白根山［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

草津白根山［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

湯釜火口の北から北東内壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分の火山活動の活発化を示す変化や、湯釜の水温が平年よりも高い状態が観測され、継続しています。23日に群馬県の協力により、31日に陸上自衛隊東部方面航空本部の協力により実施した上空からの観測でも、引き続き湯釜火口壁北側で地熱域を確認しました。

小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね１㎞の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

浅間山［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

2015 年６月 19 日の噴火後、噴火は観測されていません。

山頂火口直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は引き続きやや多い状態が続いており、火山活動はやや活発な状態で経過しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね２㎞の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

新潟焼山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

５月１日以降、振幅の小さな火山性地震が増加しました。２日以降減少してきていますが、低周波地震も時々発生しています。

５月６日の上空からの観測で、山頂東側斜面に、ごく小規模な噴火に伴うものとみられる降灰を確認しました。

今後も、想定火口内（山頂から半径１㎞ 以内）に影響を及ぼすような噴火が発生するおそれがあるため、火山活動の推移に注意してください。

想定火口内は、平成 28 年３月２日から、地元自治体等により立入規制が実施されています。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

弥陀ヶ原［噴火予報（活火山であることに留意）］

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012 年６月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

焼岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

乗鞍岳［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

御嶽山［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

2014 年 10 月以降噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が続いています。火口列からの噴煙活動や、地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

19 日に火山性微動を観測しました。火山性微動を観測したのは、2015 年７月以来です。この火山性微動の発生時及びその前後で、噴煙や地殻変動の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていません。火山性微動発生以降、低周波地震を３回観測しています。

火口から概ね１㎞ の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

白山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

富士山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

2011 年３月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていましたが、その後、地震活動は低下してきています。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはありません。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

箱根山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

大涌谷周辺での噴気の高さは概ね 600m以下で経過しています。

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。また、地殻変動観測では、特段の変化は見られていません。

一方、大涌谷周辺の想定火口域では、噴気活動が活発なところがあります。大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意してください。

伊豆東部火山群［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

伊豆大島［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

地殻変動観測では、短期的な膨張や収縮を繰り返しながら、長期的には地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が続いています。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

新島［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

神津島［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

三宅島［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

11 日 23 時頃から 12 日 03 時頃にかけて火山性微動が発生するとともに、火口の南東から南方向が沈降する傾向の変動が観測されました。火山ガス（二酸化硫黄）[1)] の放出量は、長期的には緩やかな減少傾向にありますが、火山性微動の発生後の 12 日に１日あたり約 1,200 トンに増加しました。翌日（13 日）には１日当たり約 400 トンに減少し、その後は１日あたり約 100 トンで経過しています。

山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しています。

主火孔における噴煙活動及び火山ガスの放出が継続していることから、火口内では噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、山頂火口内及び主火孔から 500m以内では火山灰噴出に警戒してください。また、火山ガスの放出が継続していることから、風下にあたる地域では火山ガスに注意してください。

八丈島［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

青ヶ島［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

西之島［火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報］

これまでの観測によると、2013 年 11 月以降、西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていましたが、2015 年 11 月下旬以降はいずれも確認されていません。2015 年 12 月以降は地表面温度の低下が確認されています。また、火口からの顕著な噴気はほとんど確認されていませんでしたが、海上保安庁の観測によると、４月及び５月の観測で白色噴気の放出が確認されています。

これまで２年以上活発な火山活動が続いてきたことから、火口から概ね 1.5㎞ 以内では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、火口から半径 0.9 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

硫黄島［火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報］

火山性地震はやや少ない状態で経過しています。GNSS[1)] 連続観測によると、地殻変動は隆起及び停滞を繰り返しています。2014 年以降は、島の北部ほど隆起が大きい状態が継続しています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒してください。

福徳岡ノ場［噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報］

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

1）火口から放出される火山ガスには、マグマに溶けていた水蒸気や二酸化硫黄、硫化水素など様々な成分が含まれており、これらのうち、二酸化硫黄はマグマが浅部へ上昇するとその放出量が増加します。
気象庁では、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。

2）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。